

ピロリ^{きん}菌検査を受けられた方へ

胃は強い酸性の状態にあるため、これまで胃には細菌は存在しないと考えられていましたが、1980 年に胃潰瘍の人の胃から「ヘリコバクター・ピロリ菌」（以下ピロリ菌）が発見され、消化性潰瘍の原因として一躍脚光を浴びるようになりました。

今では胃・十二指腸潰瘍の 90% くらいはピロリ菌が原因で、残りは鎮痛薬など服用している薬の副作用が原因だと考えられています。またピロリ菌は潰瘍だけではなく慢性胃炎、胃ポリープ、特定のリンパ腫、さらには胃がんの原因にも深く関わっていることがわかってきています。

ピロリ菌に感染している人の割合は意外に多く、当施設のデータでも 50 歳以上では半分以上を占め、年齢が上がるほど感染率が高い傾向にあります。

ピロリ菌検査で陽性だった場合

ピロリ菌感染者のすべてが潰瘍や胃がんになってしまうわけではありませんが、胃・十二指腸潰瘍の病歴がある方やいつも胃炎を指摘される方は今後潰瘍やがんになる危険性を減らすために除菌を強くおすすめします。お近くの病院か当クリニックをご受診ください

またピロリ菌の除菌によって胃がんのリスクは大きく低下しますが、それでも除菌後に胃がんが見つかる人も一定数はいますので、除菌後も胃内視鏡検査を定期的に受けていただくことがとても大切です。

なお、除菌後も抗体が下がり切らず陽性が続く（偽陽性）こともあります。偽陽性が疑われる場合は他の検査で確認する必要性について医療機関でご相談ください。

※ ピロリ菌除菌治療は、下記のいずれかに該当しない場合は保険が適用されず治療費用が全額自己負担になりますのでご注意ください。

- ① 過去半年以内に胃内視鏡検査を受けて胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃炎の診断がされた
- ② 過去半年以内に胃部 X 線検査において胃潰瘍・十二指腸潰瘍の診断がされた（胃炎の診断には胃内視鏡検査が必要です）

ピロリ菌検査で陰性だった場合

胃潰瘍や胃がんになる確率は相対的に低いといえますが、全くならないというわけではありません。健診の機会を利用して胃部 X 線や胃内視鏡検査で定期的なチェックを受けていただくことが望ましいです。

まれにピロリ菌に感染していても陰性の結果が出る（偽陰性）ことがあります。胃の検査で慢性胃炎・萎縮性胃炎や胃・十二指腸潰瘍の跡を指摘される方は、今回の結果が陰性でも他の検査で確認する必要性について医療機関でご相談ください。

他の検査でも陰性であった場合は以前感染していたピロリ菌がたまたまいなくなり、今回陰性となった可能性があります（自然除菌）。胃の検査で慢性胃炎・萎縮性胃炎や胃・十二指腸潰瘍の跡を指摘される方は、今回の結果が陰性でも経過観察を続けてください。

